

7 . 河川空間の利用状況

7 - 1 河川の利用状況

1) 上流部

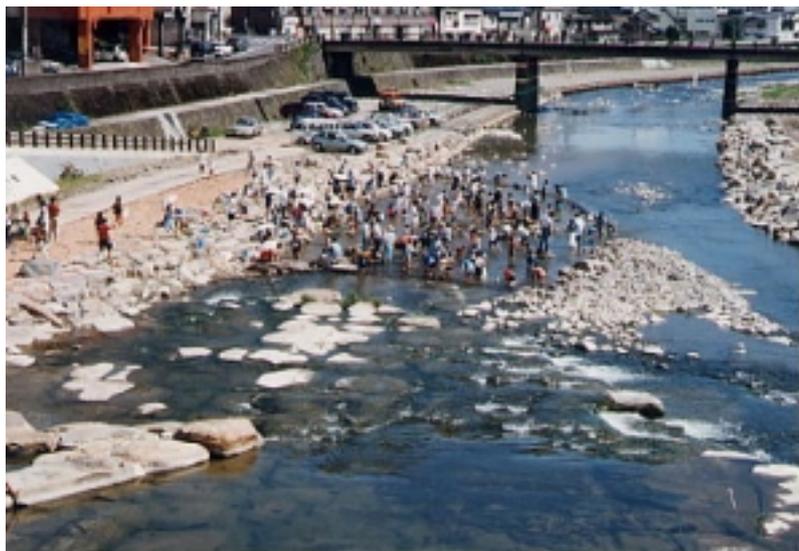
本明川上流部の景勝地として富川溪谷があり、四季それぞれの味わいを持つ溪谷美は市民のハイキングコースとして利用されている。また、その周辺には「千本木」とよばれるかつらの巨木、「大雄寺の五百羅漢」が存在し、自然探勝や行楽に訪れる人々で賑わいを見せる。

2) 中・下流部

諫早市街部を貫流する本明川中流部は、露出した岩盤や巨礫がせせらぎを創出し、また福田川合流点より下流部は広々とした田園の中にあり、広い高水敷を有している。

この区域は沿川住民にとって散策の場、憩いの場、安らぎの場であるとともに、水遊び、釣り、各種イベント（諫早川まつり、カヌー市民交流フェスティバル、魚のつかみどり大会等）に利用されている。

また現在多様な河川環境の保全と創造に配慮した川づくりとして多自然型川づくりを推進しており、市民に親しまれる川づくりを目指している。



多自然型川づくりと魚のつかみどり大会



諫早川まつり



カヌー市民交流フェスティバル



水
際
線
の
多
様
化

多自然型川づくりの事例

7 - 2 高水敷地の利用状況

近年、諫早市は人口が増加傾向にあり、市街地は過密化し、既成市街地の自然空間は少なくなりつつあるため、市街地周辺の御館山、城山、上山公園等の自然に富んだ空間とともに、本明川、半造川は市民の憩いの場として注目されている。

現在、市街地部の高水敷は、諫早市が市民広場として整地し、一般に開放されており、沿川住民の散策の場、或いは諫早川祭り等のイベントの場として活用されている。

高水敷地総面積は約 41ha で、内緑地広場として 1.39ha が利用されている。

なお、公園堰から下流は感潮区間であったが平成 9 年の諫早湾干拓事業の潮受堤防締切り以降、公園堰下流区間で水域の淡水化と共に干潟部の陸地化が進んでおり、(P16 参照) 将来的には高水敷の利用範囲の拡大が予想される。

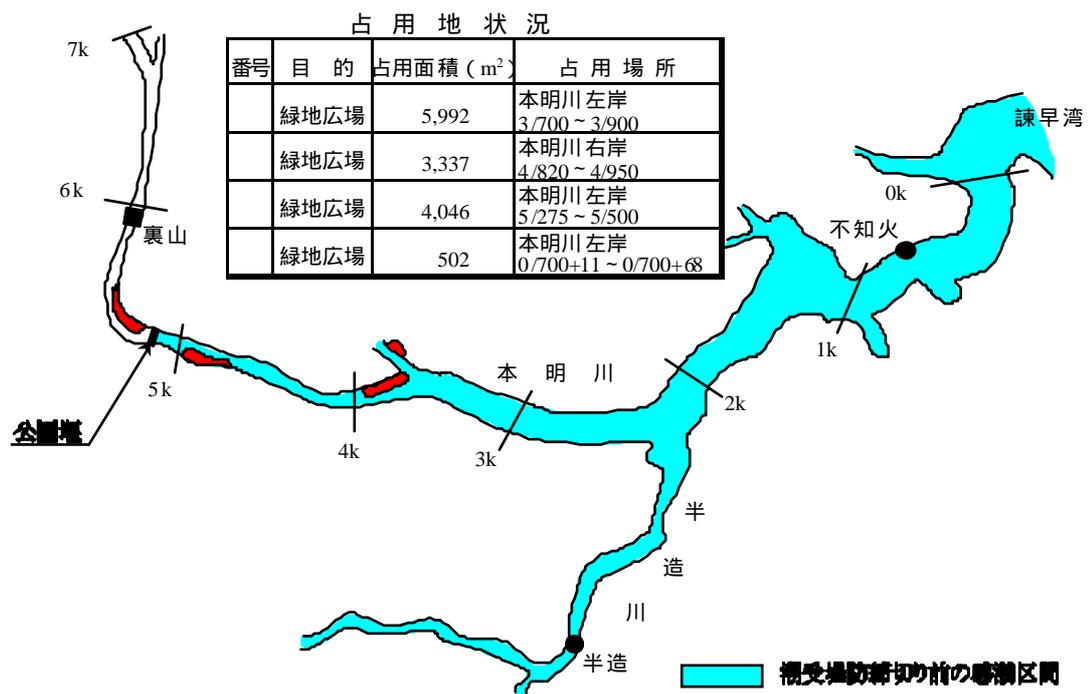


図 7 - 1 高水敷の利用状況図